

就職先企業に対する大学教育の成果に関する調査研究
－就職先企業に対するアンケート調査結果－

報 告 書

平成20年1月

北 海 道 大 学

高等教育機能開発総合センター

キャリアセンター

目次

はじめに・・・1

I．調査の概要・・・1

 1．調査目的・・・1

 2．実施時期・・・1

 3．調査対象企業・・・1

 4．調査手法・・・1

 5．調査項目・・・1

 6．実施主体・・・1

 7．調査票回収状況・・・1

II 調査結果・・・2

 1．回答属性・・・2

 1.1 本社所在地・・・2

 1.2 従業員規模・・・3

 1.3 業種・・・4

 2．大卒者の採用状況・・・5

 2.1 近年の採用人数・・・5

 2.2 北海道大学以外の採用企業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

 2.3 採用方法・・・11

 2.4 今後の採用方針・・・13

 3．大卒者の働く上での能力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

 3.1 10年前と比較した大卒者の能力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

 3.2 他大学と比較した北大生の能力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

 3.3 大学在学中に身につけてほしい能力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26

資料

自由回答

 北海道大学の教育に望むこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28

アンケート調査票・・・30

アンケート依頼・・・34

はじめに

本報告書は、平成 19 年度に実施した北海道大学の卒業生が就職している企業に対する「就職先企業に対する大学教育の成果に関するアンケート調査」の結果をまとめたものである。

本集計結果では、原則として設問ごとの単純集計結果と、必要に応じて、本社所在地や従業員規模別のクロス集計結果を中心にまとめたものである。これらに加え、特徴的な傾向がみられるものについては、設問ごとのクロス集計を行った。なお、資料編として、自由回答、調査票、依頼文書などを掲載した。

I. 調査の概要

1. 調査目的

本学の卒業生が就職している企業に対してアンケート調査を実施し、採用状況や本学卒業生の能力に関する評価などを明らかにすることを目的に実施した。

2. 実施時期

平成 19 年 7 月末調査票送付

平成 19 年 8 月末調査票回収締切

3. 調査対象企業

過去 3 年間で本学学生を 2 名以上採用している企業

4. 調査手法

3. の企業の人事担当部署に直接調査票を郵送した。

回答は返信用封筒により郵送によりキャリアセンターにて回収を行った。

5. 調査項目

- ・卒業生の採用状況・方針
- ・大卒者の働く上での能力
- ・大学教育に対する要望 など

6. 実施主体

高等教育機能開発総合センター，キャリアセンター

7. 調査票回収状況

配布数 791，有効回収数 228（回収率 28.8%）

Ⅱ 調査結果

1. 回答属性

1.1 本社所在地

本社の所在地は、北海道内が約2割、北海道外が約8割となっている。北海道外のうち、その約7割が東京都であり、次いで、大阪府となっている（図表1-1）。

図表1-1 本社所在地

	回答数	%
北海道内	41	18.0
北海道外	183	80.3
青森県	1	0.4
宮城県	1	0.4
千葉県	3	1.3
東京都	131	57.5
神奈川県	9	3.9
長野県	2	0.9
岐阜県	1	0.4
静岡県	4	1.8
愛知県	5	2.2
京都府	3	1.3
大阪府	13	5.7
兵庫県	4	1.8
岡山県	1	0.4
香川県	2	0.9
愛媛県	1	0.4
福岡県	2	0.9
不 明	4	1.8
計	228	100.0

1.2 従業員規模

回答企業の従業員規模をみると、6割以上が1,000人以上であり、3,000人以上の企業が約3分の1を占めている（図表1-2）。

本社所在地とのクロスでみると、北海道外企業の方が北海道内企業より従業員規模が大きな企業が集中している（図表1-3）。

図表1-2 従業員規模

	回答数	%
～299 人	39	17.1
～29 人	1	0.4
30～99 人	5	2.2
100～299 人	33	14.5
300～999 人	48	21.1
300～499 人	19	8.3
500～999 人	29	12.7
1,000～2,999 人	66	28.9
3,000 人～	74	32.5
不 明	1	0.4
合 計	228	100.0

図表1-3 本社所在地と従業員規模のクロス

			本社所在地		合計
			北海道内	北海道外	
従業員規模 4 区分	～299 人	回答数	23	16	39
		%	10.3	7.2	17.5
	300～999 人	回答数	9	39	48
		%	4.0	17.5	21.5
	1,000～2,999 人	回答数	6	59	65
		%	2.7	26.5	29.1
	3,000 人～	回答数	3	68	71
		%	1.3	30.5	31.8
合計		回答数	41	182	223
		%	18.4	81.6	100.0

1.3 業種

回答企業の業種をみると、「製造業」が約4割を占めており、次いで、「情報通信業」「卸売・小売業」となっている（図表1-4）。

図表1-4 業種

	回答数	%
農林水産業	1	0.4
建設業	13	5.7
製造業	89	39
電気・ガス・熱供給・水道業	4	1.8
情報通信業	40	17.5
運輸業	7	3.1
卸売・小売業	17	7.5
金融・保険業	12	5.3
不動産業	1	0.4
飲食店、宿泊業	2	0.9
教育、学習支援業	3	1.3
サービス業（他に分類されないもの）	15	6.6
その他	23	10.1
不明	1	0.4
合計	228	100

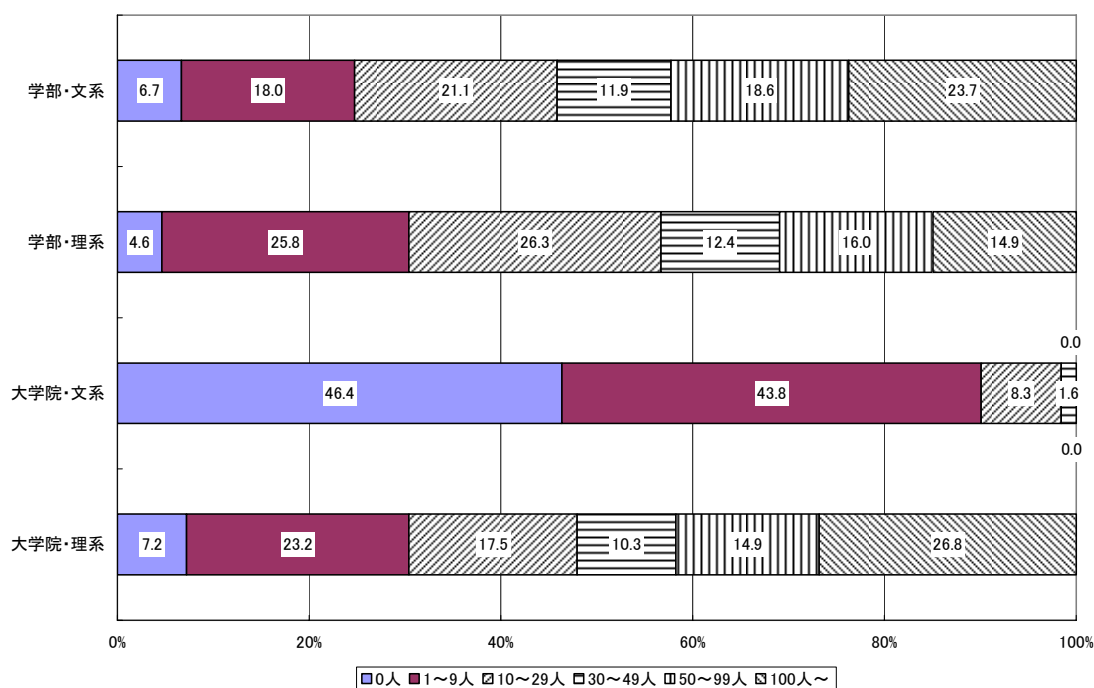
2. 大卒者の採用状況

2.1 近年の採用人数

(1) 5年間・全体

回答企業の過去5年間の大卒の採用者数（北大を含めた大卒全体）をみると、学部・文系、大学院・理系では「100人～」が約4分の1を占めており、年間平均20人以上も採用している企業が多いことがわかる。理系・学部も学部・文系や大学院・理系よりは少ないが、「50～99人」と「100人～」をあわせると、約3割を占めている。ただし、文系・大学院は「0人」という企業が最も多く、次いで「1人」となっており、文系・大学院の採用が他に比べ少ないといえる（図表2-1）。

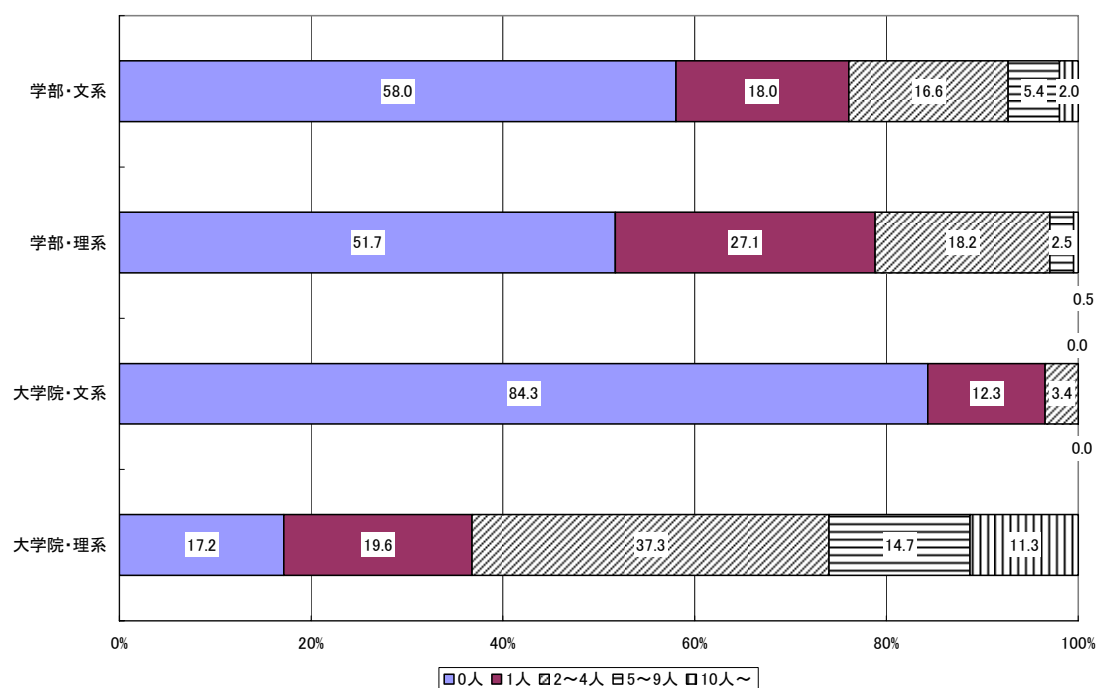
図表2-1 回答企業の過去5年間の採用者数の分布（全体）



(2) 5年間・北大

回答企業の過去5年間の北海道大学の卒業生の採用者数をみると、大学院・理系では、「2～4名」が全体の約4割を占めている。学部・文系，学部・理系では，半数強が「0人」となっているものの，5年間で2人以上を採用している企業も約2割ある。ただし，文系・大学院は「0人」という企業が8割を超えている（図表2-2）。

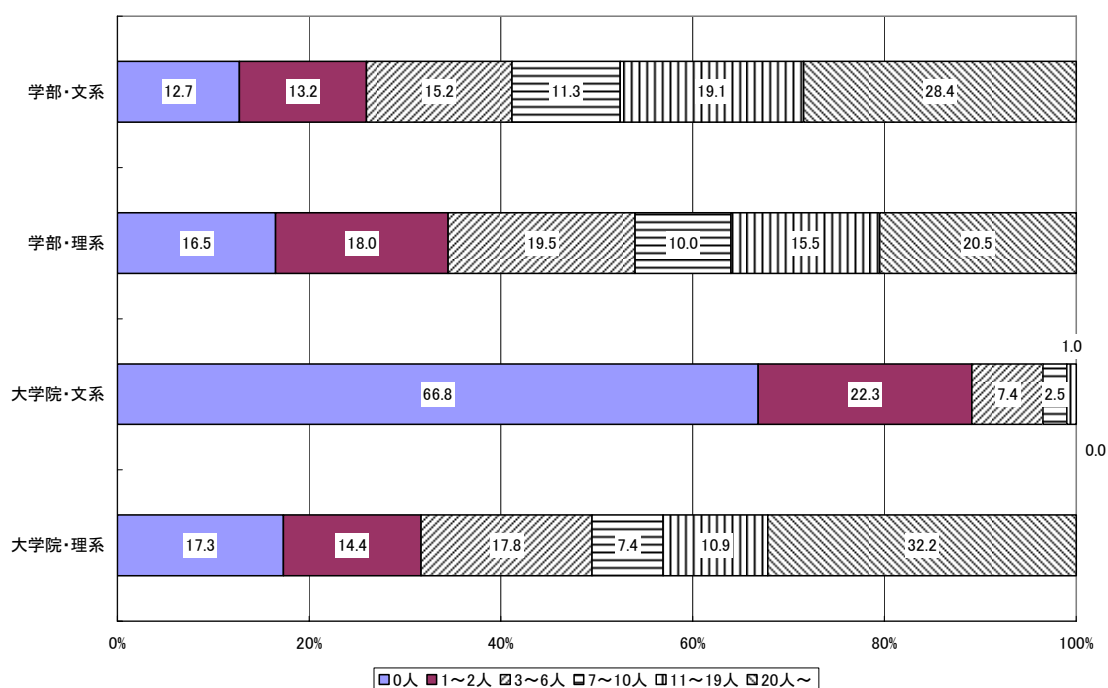
図表2-2 回答企業の過去5年間の採用者数の分布（北大）



(3)2007年・全体

回答企業の2007年3月卒の大卒の採用者数（北大を含めた大卒全体）をみると、学部・文系，大学院・理系では「20人～」が約3割を占めており，(1)でみた過去5年間と比較しても近年の採用意欲の高まりをみることができる。また，学部・理系についても学部・文系や大学院・理系よりはやや少ないが，「20人～」が約2割を占めている。大学院・文系は「0人」という企業が最も多く約3分の2を占めているが，1人以上を採用している企業も約3分の1を占めている（図表2-3）。

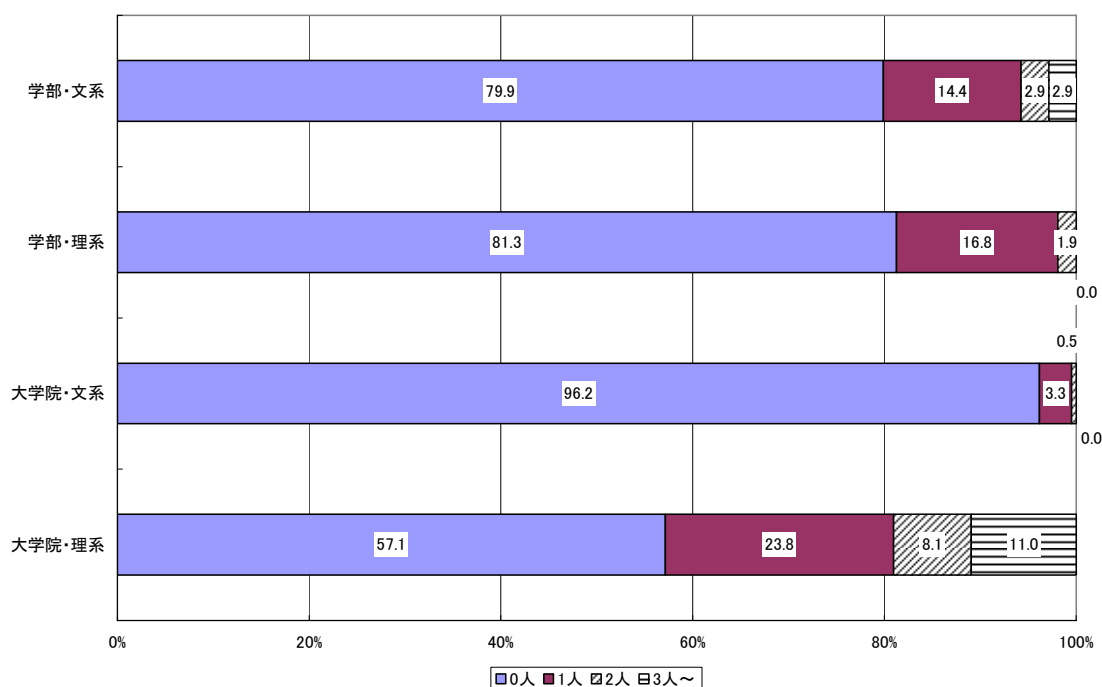
図表2-3 回答企業の2007年3月卒の採用者数の分布（全体）



(4) 2007年・北大

回答企業の2007年3月卒の北海道大学の卒業生の採用者数をみると、すべての区分で「0人」が最も多く半数以上を占めているが、大学院・理系では、「1名」が全体の約4分の1を占めており、また、学部・文系、学部・理系では、その割合は15%程度となっている。ただし、大学院・文系では採用している企業は4%程度しかない（図表2-4）。

図表2-4 回答企業の2007年3月卒の採用者数の分布（北大）



(5) 回答企業の採用重点

上記の結果をもとに、回答企業の採用重点を文系中心と理系中心にわけてみた¹。これによると、約4分の1が文系中心、約3分の2が理系中心となった（図表2-5）。これを本社所在地、従業員規模別にその状況を見ると、北海道外企業や規模が大きくなるほど理系中心の企業が増えている（図表2-6、図表2-7）。

¹ 過去5年間の北大の採用者のうち、学部卒と大学院卒をあわせ、文系の採用者数が多い場合は「文系中心」、理系が多い場合は「理系中心」とした。ただし、過去5年間の全体の採用数において、大幅に文系または理系が多い場合は、北大の採用数に関わらず、「文系中心」または「理系中心」とした。また、過去5年間の北大の採用者の文系と理系の採用者数が同数でかつ過去5年間の全体の採用数がほぼ同数の場合は、「不明」とした。

図表2-5 回答企業の採用重点（文系中心か理系中心か）

	回答数	%
文系中心	59	25.9
理系中心	148	64.9
不明	21	9.2
合計	228	100.0

図表2-6 回答企業の採用重点（文系中心か理系中心か）（本社所在地別）

		北海道内	北海道外	合計
文系中心	回答数	21	38	59
	%	52.5	23.3	29.1
理系中心	回答数	19	125	144
	%	47.5	76.7	70.9
合計	回答数	40	163	203
	%	100.0	100.0	100.0

図表2-7 回答企業の採用重点（文系中心か理系中心か）（従業員規模別）

		～299 人	300～999 人	1,000～2,999 人	3,000 人～	合計
文系中心	回答数	13	14	18	14	59
	%	33.3	30.4	28.6	24.1	28.6
理系中心	回答数	26	32	45	44	147
	%	66.7	69.6	71.4	75.9	71.4
合計	回答数	39	46	63	58	206
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

2.2 北海道大学以外の採用企業（問5）

過去5年間の採用人数の多い大学名を文系・理系別に上位3校まで記述してもらった。これをもとに、回答企業を「北大と同等」と「北大が上位」の2つに分けた²。これによると、約3分の1が「北大と同等」、4割強が「北大が上位」となった（図表2-8）。これを本社所在地、従業員規模別にその状況をみると、北海道内企業ではそのほとんどが「北大が上位」になっている。また、規模が大きくなるほど「北大と同等」の割合が高くなっている（図表2-9、2-10）。

これを2.1でみた採用重点（文系中心か理系中心か）との関係でみると、図表2-11の分布となっている。

² 2.1 でみた採用重点を基準に文系中心の企業の場合は文系の上位3校の中に、理系中心の企業の場合は理系の上位3校の中に、旧帝大及びそれに準ずる国立大学や慶應義塾大学、早稲田大学が含まれている場合は、「北大と同等」とし、これらの大学が含まれていない場合は、「北大が上位」とした。

図表2-8 北海道大学以外の採用企業の位置

	回答数	%
北大と同等	79	34.6
北大が上位	100	43.9
不明	49	21.5
合計	228	100.0

図表2-9 北海道大学以外の採用企業の位置（本社所在地別）

		北海道内	北海道外	合計
北大と同等	回答数	2	74	76
	%	5.3	54.0	43.4
北大が上位	回答数	36	63	99
	%	94.7	46.0	56.6
合計	回答数	38	137	175
	%	100.0	100.0	100.0

図表2-10 北海道大学以外の採用企業の位置（従業員規模別）

		～299 人	300～999 人	1,000～2,999 人	3,000 人～	合計
北大と同等	回答数	6	18	19	35	78
	%	17.6	42.9	36.5	70.0	43.8
北大が上位	回答数	28	24	33	15	100
	%	82.4	57.1	63.5	30.0	56.2
合計	回答数	34	42	52	50	178
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

図表2-11 回答企業の採用重点と北海道大学以外の採用企業の位置

	回答数	%
文系中心・北大と同等	13	5.7
文系中心・北大が上位	34	14.9
理系中心・北大と同等	63	27.6
理系中心・北大が上位	62	27.2
不明	56	24.6
合計	228	100.0

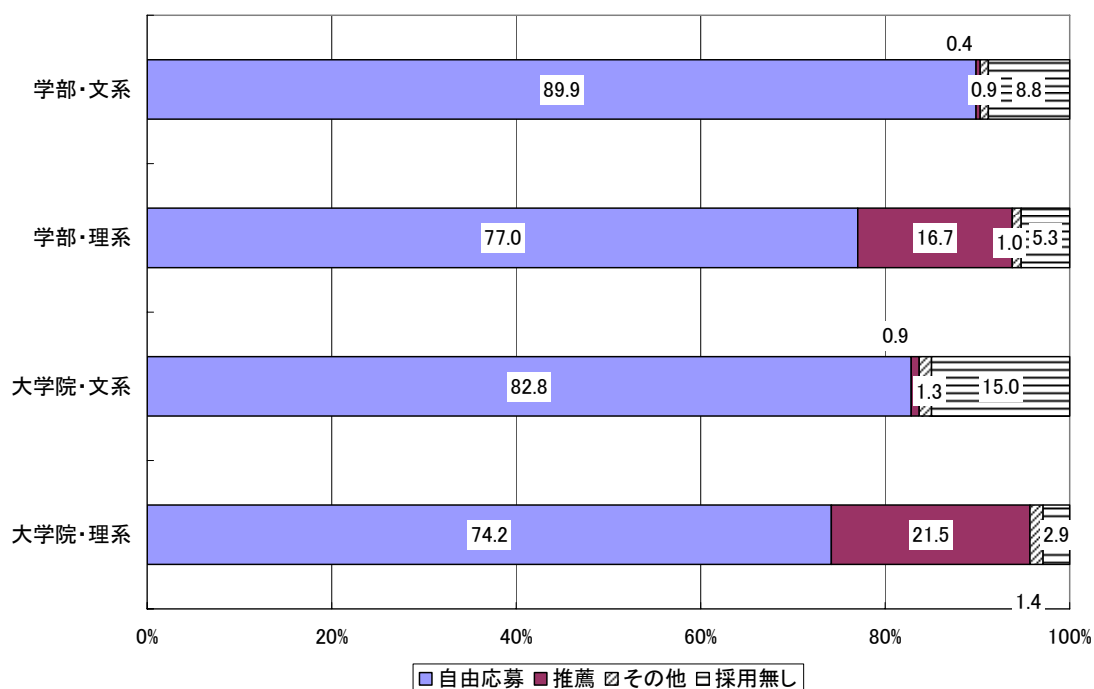
2.3 採用方法（問6）

北海道大学の学生の採用方法について、学部・大学院及び文系・理系別に最も一般的な方法を聞いた。

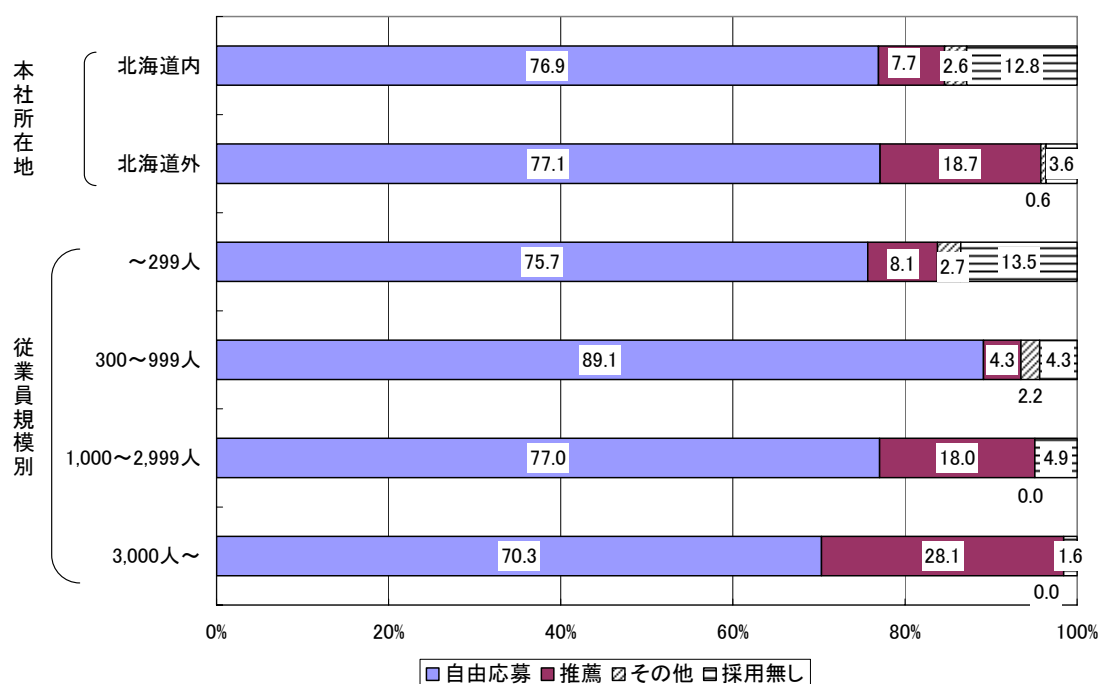
これによると、「自由応募」が最も多いが、理系では学部、大学院とも「推薦」が2割程度を占めている（図表2-12）。

この理系の採用方法について、本社所在地別、従業員規模別にみると、学部、大学院とも北海道外に本社のある企業や従業員規模が大きい企業ほど「推薦」の割合が高くなっている（図表2-13、2-14）。

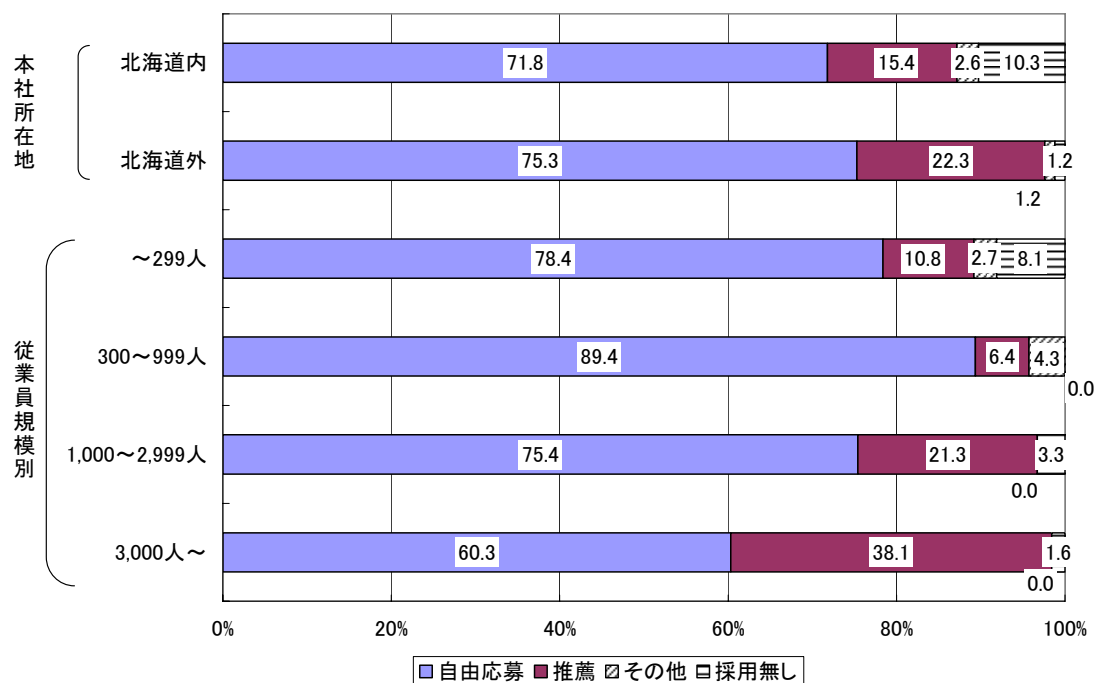
図表2-12 最も一般的な採用方法（全体）



図表2-13 最も一般的な採用方法（学部・理系）（本社所在地別，従業員規模別）



図表2-14 最も一般的な採用方法（大学院・理系）（本社所在地別，従業員規模別）



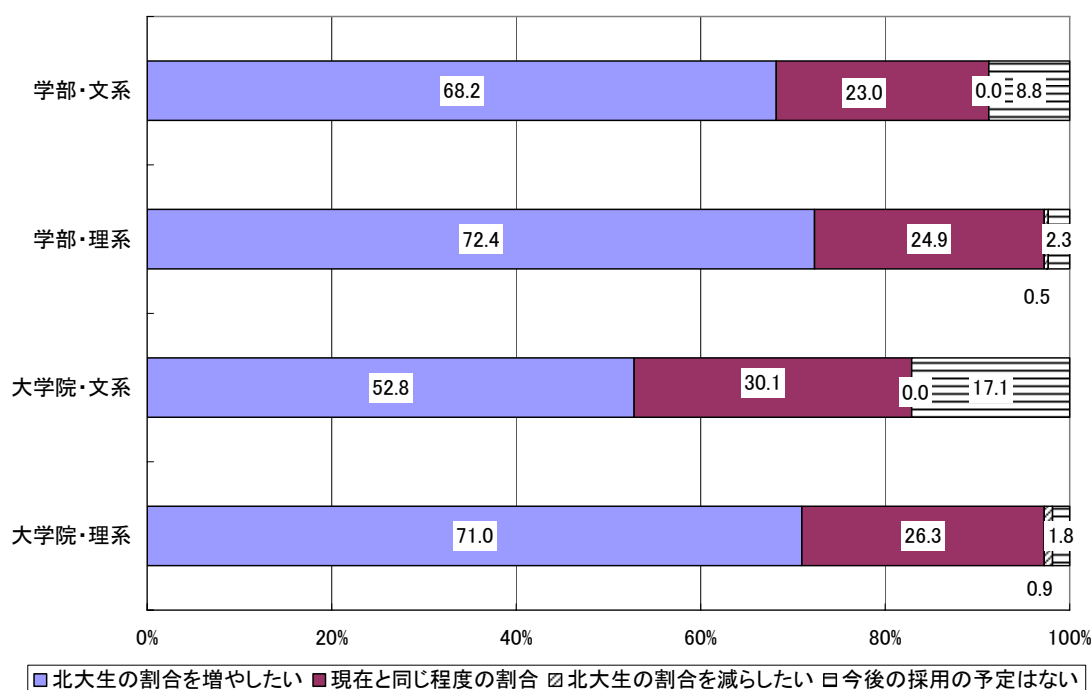
2.4 今後の採用方針（問7）

今後の北海道大学からの採用者数の増減について、学部・大学院及び文系・理系別に聞いた。

これによると、すべての学部・大学院、文系・理系において「北大生の割合を増やしたい」が過半数を超えている。逆に「北大生の割合を減らしたい」という回答はほとんどなかった。特に、理系では学部、大学院とも「北大生の割合を増やしたい」の割合が7割を超えている（図表2-15）。

「北大生の割合を増やしたい」という回答割合について、本社所在地別、従業員規模別にみると、北海道外に本社のある企業の方が、北海道内の企業に比べて20%ポイント程度高く、また、従業員規模が大きい企業ほどおおむね回答割合が高くなっている。つまり、道外の大企業の北大生に対する採用意欲が旺盛であることがわかる（図表2-16）。

図表2-15 今後の採用方針（全体）



図表2-16 北大生の割合を増やしたいと回答した企業の割合

		学部・文系	学部・理系	大学院・文系	大学院・理系
本社所在地	北海道内	53.8	59.0	35.9	53.8
	北海道外	70.7	75.3	56.1	74.7
従業員規模	～299 人	50.0	55.3	34.2	50.0
	300～999 人	48.9	53.3	37.8	55.6
	1,000～2,999 人	84.1	88.9	61.3	85.7
	3,000 人～	75.7	78.6	65.7	78.6

3. 大卒者の働く上での能力

3.1 10年前と比較した大卒者の能力（問8）

約10年前と比較した最近の大卒者の能力について、以下の20の能力をそれぞれ5段階評価で回答してもらった。

これによると、ほとんどの能力で「同じ程度」と回答した割合が最も多くなっているが、「大変優れている」が過半数の能力がある一方、「やや劣っている」が過半数の能力もある（図表3-1）。

これらの回答を得点化³し、この20の能力をより詳細にわけると、以下のように分類できる（図表3-2）。

①大幅に向上していると回答している能力（平均値4.0以上）

- ・「14 コンピュータやインターネットを活用する力」

②やや向上していると回答している能力（平均値3.1～4.0）

- ・「20 外国語で書いたり話したりする力」
- ・「18 プレゼンテーション能力」
- ・「4 新たな知識を素早く身につける力」
- ・「19 記録，資料，報告書等を作成する力」
- ・「1 大学で学んだ学問分野や専門領域に関する知識」
- ・「9 時間を有効に使う力」

③ほぼ同程度であると回答している能力（平均値2.9～3.1）

- ・「15 新たなアイデアや解決策を見つけ出す力」
- ・「3 分析的に考察する力」
- ・「2 その他の学問分野や専門領域に関する知識」
- ・「7 新たなチャンスに機敏に対応する力」
- ・「16 問題点を発見する力」

④やや劣っていると回答している能力（平均値2.5～2.9）

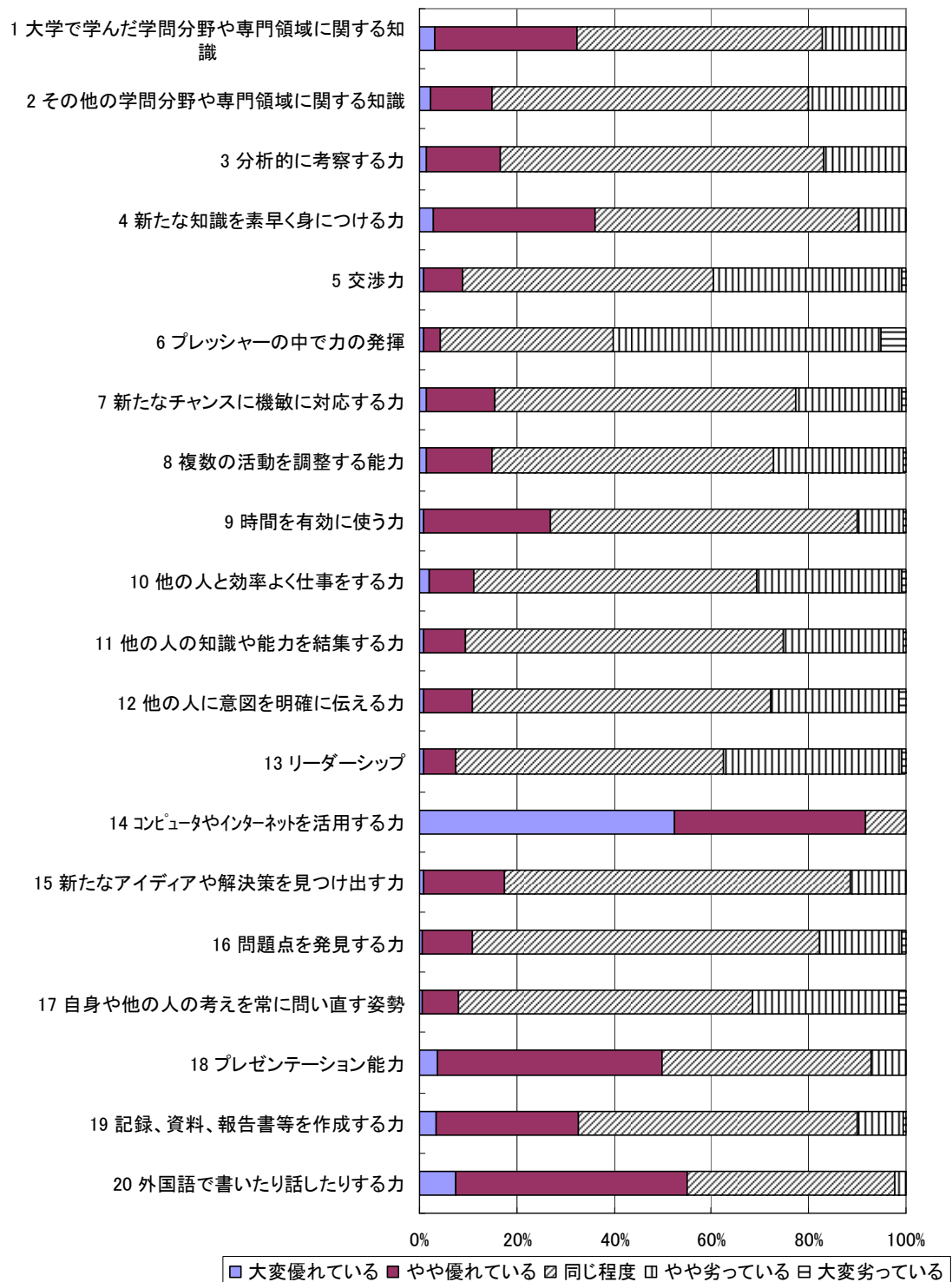
- ・「8 複数の活動を調整する能力」
- ・「11 他の人の知識や能力を結集する力」
- ・「12 他の人に意図を明確に伝える力」
- ・「10 他の人と効率よく仕事をする力」
- ・「17 自身や他の人の考えを常に問い直す姿勢」
- ・「13 リーダーシップ」
- ・「5 交渉力」

⑤大幅に劣っていると回答している能力（平均値～2.5）

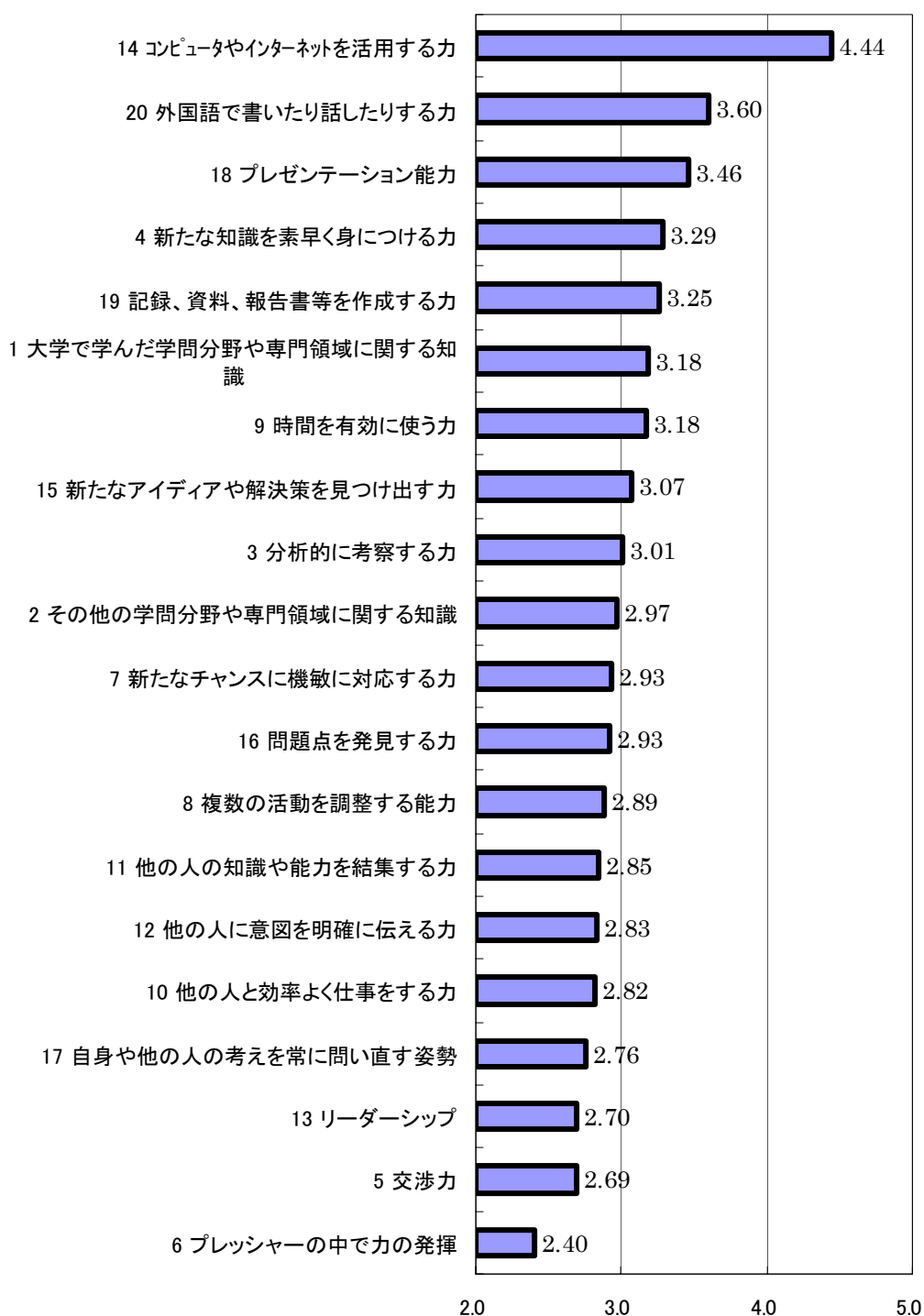
- ・「6 プレッシャーの中で力の発揮」

³ 平均値は、（大変優れている）＝5、（やや優れている）＝4、（同じ程度）＝3、（やや劣っている）＝2、（大変劣っている）＝1として算出

図表3-1 10年前と比較した大卒者の能力（5段階評価）



図表3-2 10年前と比較した大卒者の能力（平均値）



本社所在地別にみると、全体的には大きな差はないが、「14 コンピュータやインターネットを活用する力」「20 外国語で書いたり話したりする力」「18 プレゼンテーション能力」など10年前と比べて能力が大きく向上していると回答している能力では、北海道外企業の方が10年前より大きく向上したと評価している。逆に、10年前と比べて大

大きく劣っていると評価している「6 プレッシャーの中で力の発揮」については、北海道内企業の方が北海道外企業に比べると高く評価している（図表3-3）。

従業員規模別にみると、全体的にみると大きな差はないが、「14 コンピュータやインターネットを活用する力」「20 外国語で書いたり話したりする力」など10年前と比べて能力が大きく向上していると回答している能力では、おおむね従業員規模が大きな企業の方が10年前より大きく向上したと評価している。逆に、10年前と比べて大きく劣っていると評価している「6 プレッシャーの中で力の発揮」については、従業員規模が小さい企業の方が従業員規模が大きな企業と比べると高く評価している（図表3-4）。

文系中心・理系中心別にみると、両者に大きな差はないが、「3 分析的に考察する力」では、文系中心に採用している企業の方が理系中心に採用している企業より高く評価している。逆に、「18 プレゼンテーション能力」「6 プレッシャーの中で力の発揮」では理系中心に採用している企業の方が高く評価している（図表3-5）。

北大の位置別にみると、「14 コンピュータやインターネットを活用する力」「20 外国語で書いたり話したりする力」「18 プレゼンテーション能力」「4 新たな知識を素早く身につける力」など10年前と比べて能力が大きく向上していると回答している能力では、北大と同等である企業の方が10年前より大きく向上したと評価している。逆に、10年前と比べ劣っていると評価している「12 他の人に意図を明確に伝える力」「10 他の人と効率よく仕事をする力」「17 自身や他の人の考えを常に問い直す姿勢」「13 リーダーシップ」「5 交渉力」「6 プレッシャーの中で力の発揮」については、北大が上位である企業の方が北大と同等である企業に比べると高く評価している（図表3-6）。

文系・理系中心&北大の位置別にみると、図表3-7のようになっている。

図表3-3 10年前と比較した大卒者の能力（平均値）（本社所在地別）

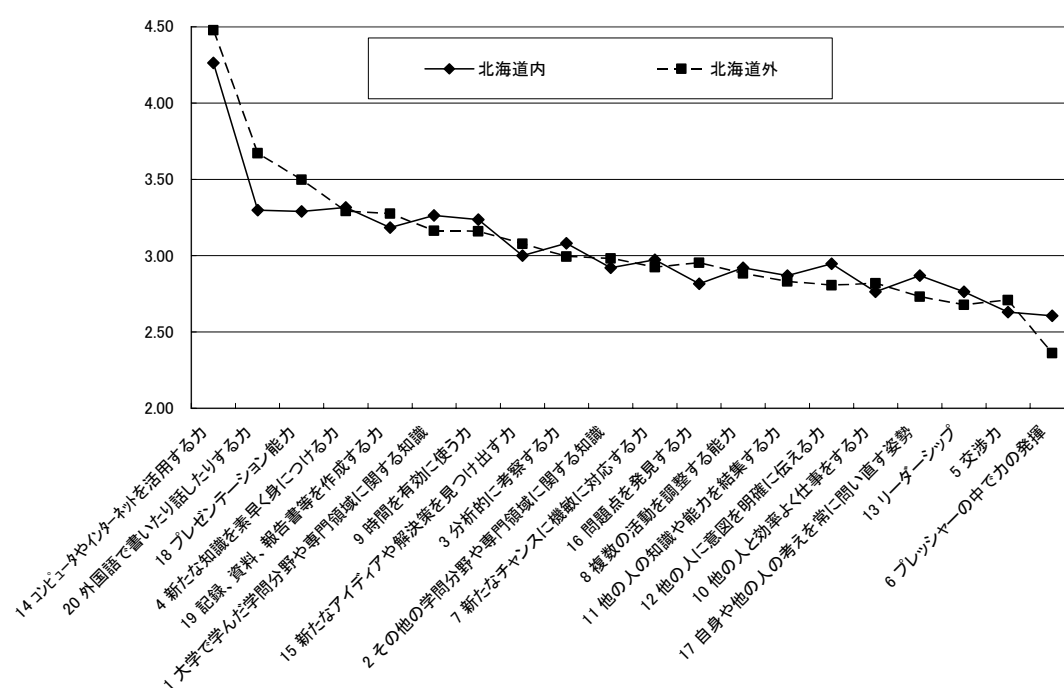
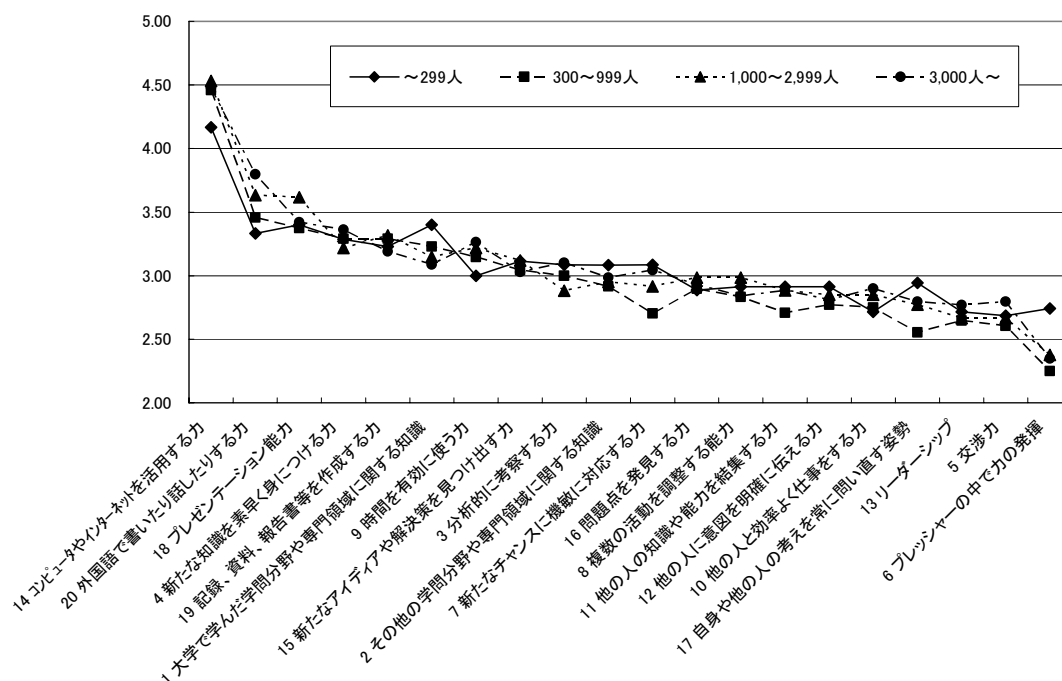
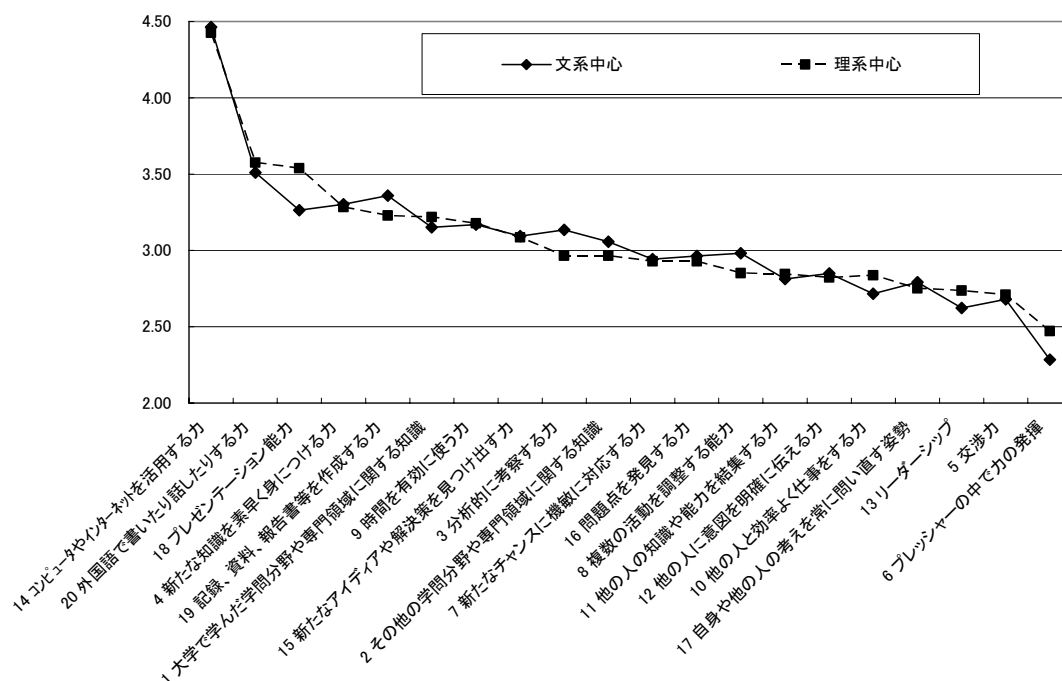


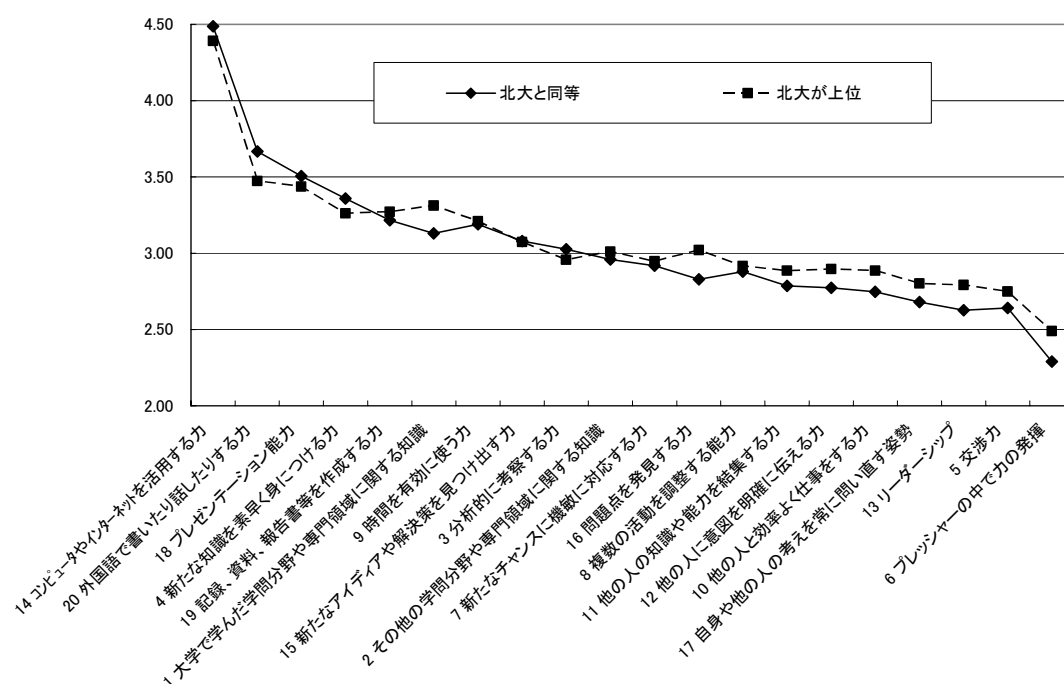
表3-4 10年前と比較した大卒者の能力（平均値）（従業員規模別）



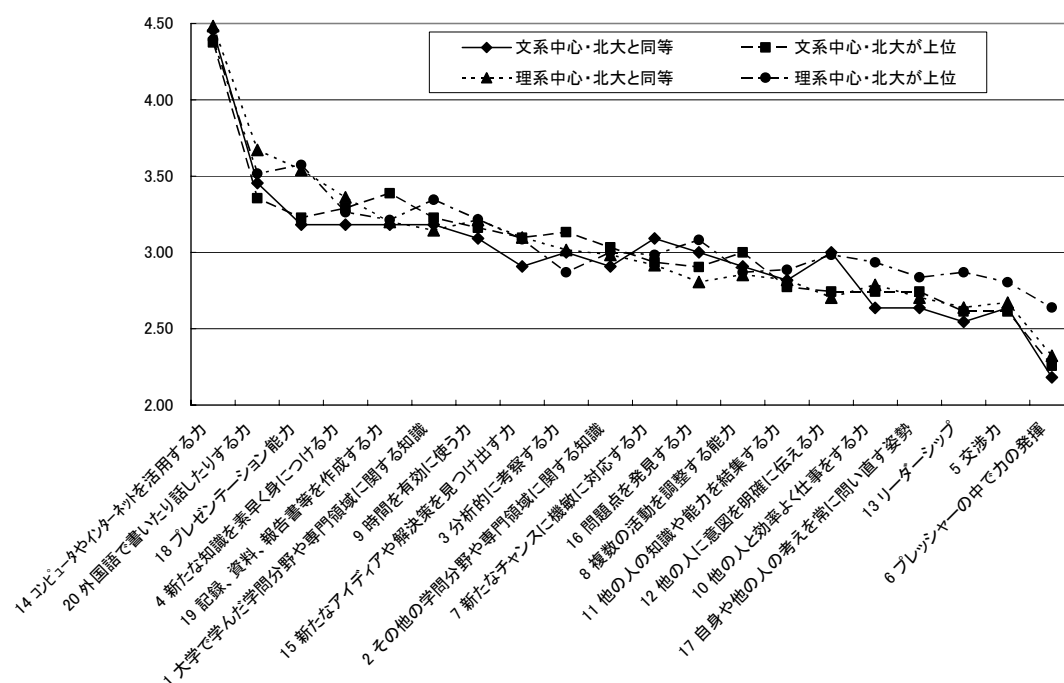
図表3-5 10年前と比較した大卒者の能力（平均値）（文系・理系中心別）



図表3-6 10年前と比較した大卒者の能力（平均値）（北大の位置別）



図表3-7 10年前と比較した大卒者の能力（平均値）（文系・理系中心&北大の位置別）



3.2 他大学と比較した北大生の能力（問9）

他大学と比較した北海道大学卒の採用者の能力について、以下の20の能力をそれぞれ5段階評価で回答してもらった。

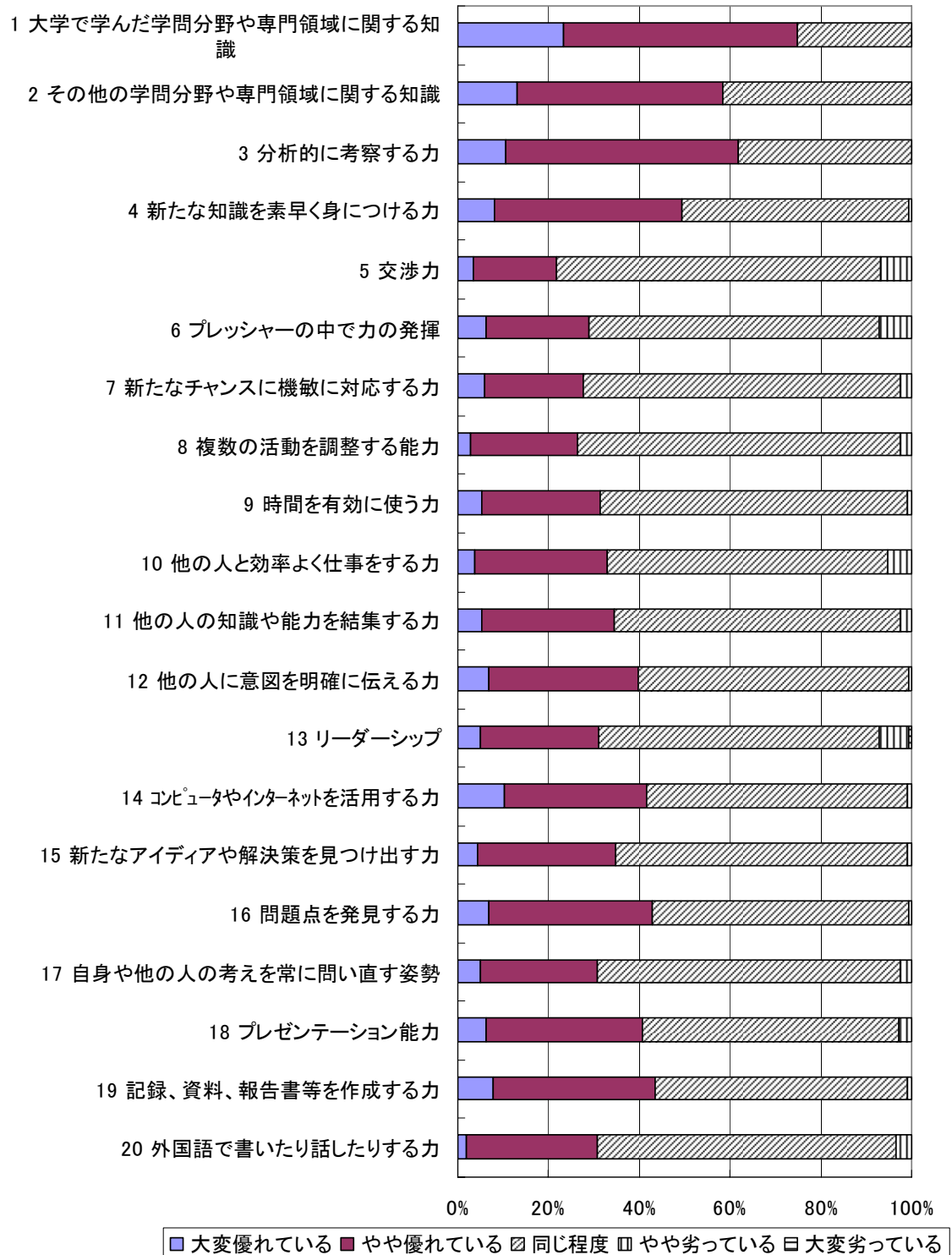
これによると、ほとんどの能力で「同じ程度」と回答した割合が最も多くなっているが、「やや劣っている」「大変劣っている」という回答はほとんどなく、逆に「大変優れている」「やや優れている」という回答をあわせると、4割程度を占めている（図表3-8）。この結果を5段階評価の平均値でみると、すべての能力で平均の3.0を超えており、おおむね高い評価を得ているといえる（図表3-9）。

これらの回答を得点化⁴し、この20の能力をより詳細にわけると、以下のように分類できる。

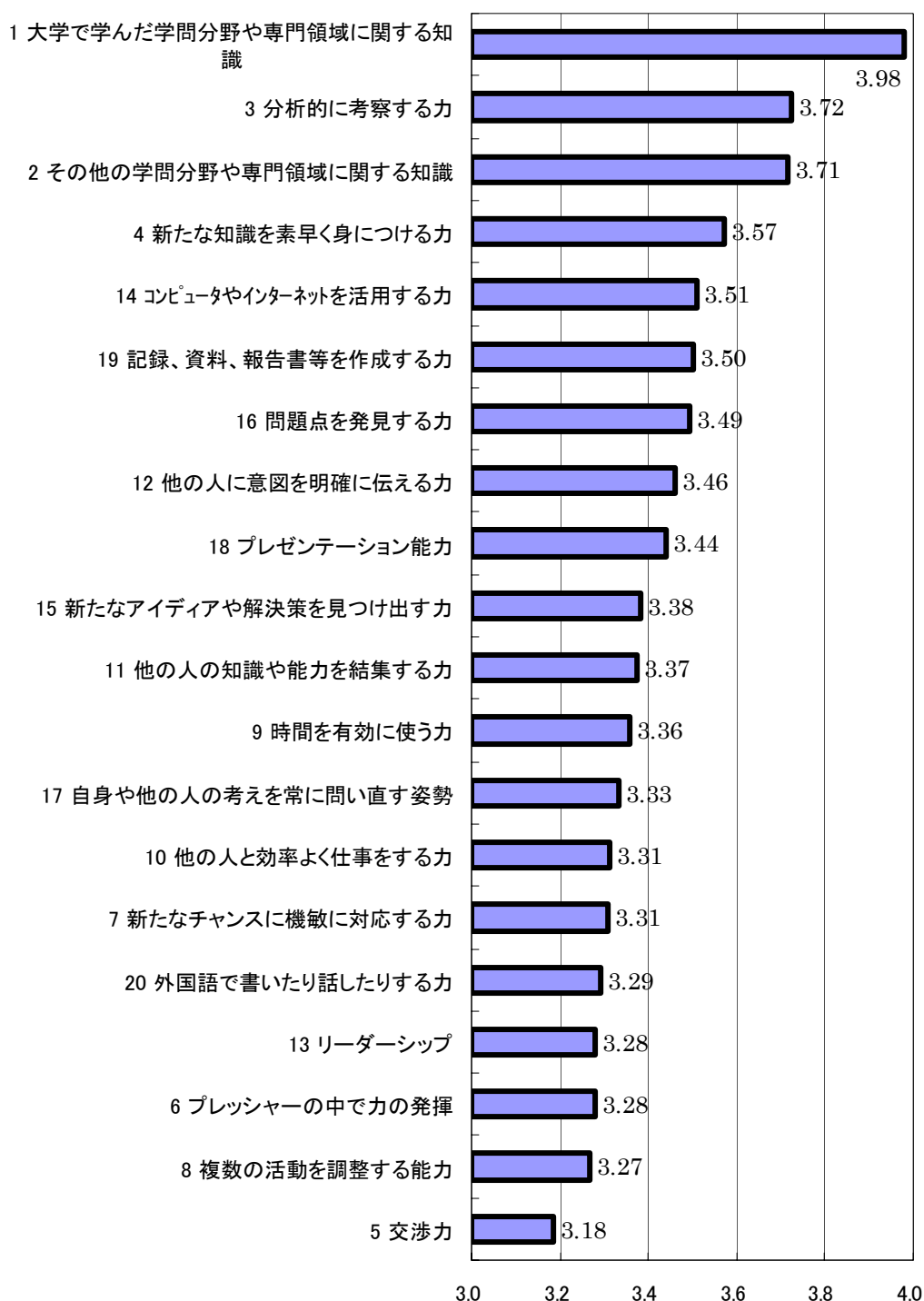
- ①北海道大学卒の採用者の方が大幅に優れていると回答している能力（平均値3.5以上）
 - ・「1 大学で学んだ学問分野や専門領域に関する知識」
 - ・「3 分析的に考察する力」
 - ・「2 その他の学問分野や専門領域に関する知識」
 - ・「4 新たな知識を素早く身につける力」
 - ・「14 コンピュータやインターネットを活用する力」
 - ・「19 記録，資料，報告書等を作成する力」
- ②北海道大学卒の採用者の方がやや優れていると回答している能力（平均値3.3～3.5）
 - ・「16 問題点を発見する力」
 - ・「12 他の人に意図を明確に伝える力」
 - ・「18 プレゼンテーション能力」
 - ・「15 新たなアイデアや解決策を見つけ出す力」
 - ・「11 他の人の知識や能力を結集する力」
 - ・「9 時間を有効に使う力」
 - ・「17 自身や他の人の考えを常に問い直す姿勢」
 - ・「10 他の人と効率よく仕事をする力」
 - ・「7 新たなチャンスに機敏に対応する力」
- ③北海道大学卒の採用者の方が少しだけ優れていると回答している能力（平均値3.0～3.3）
 - ・「20 外国語で書いたり話したりする力」
 - ・「13 リーダーシップ」
 - ・「6 プレッシャーの中で力の発揮」
 - ・「8 複数の活動を調整する能力」
 - ・「5 交渉力」

⁴ 平均値は、（大変優れている）＝5、（やや優れている）＝4、（同じ程度）＝3、（やや劣っている）＝2、（大変劣っている）＝1として算出

図表3-8 他大学と比較した北大生の能力（5段階評価）



図表3-9 他大学と比較した北大生の能力（平均値）



本社所在地別にみると、「3 分析的に考察する力」「2 その他の学問分野や専門領域に関する知識」「4 新たな知識を素早く身につける力」「19 記録、資料、報告書等を作成する力」など他大学に比べて評価がかなり高い能力については、北海道内企業の方がより高く評価している。逆に、他大学との比較において優れているという程度が小さ

な「10 他の人と効率よく仕事をする力」「7 新たなチャンスに機敏に対応する力」「6 プレッシャーの中で力の発揮」については、北海道外企業の方が北海道内企業に比べると高く評価している（図表3-10）。

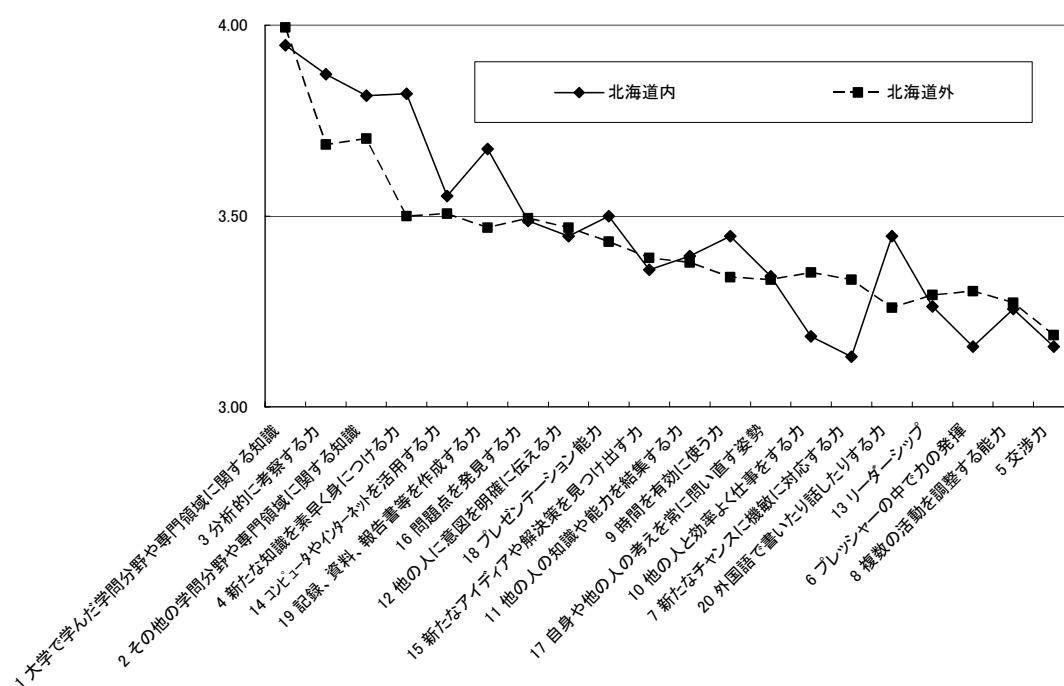
従業員規模別にみると、4つの従業員規模のうち、「300～999」が多く有能力で最も高い評価となっているのに対し、「～299人」がほとんどの能力で最も低い評価となっている（図表3-11）。

文系中心・理系中心別にみると、「3 分析的に考察する力」「2 その他の学問分野や専門領域に関する知識」「4 新たな知識を素早く身につける力」「14 コンピュータやインターネットを活用する力」「19 記録、資料、報告書等を作成する力」「16 問題点を発見する力」「12 他の人に意図を明確に伝える力」「18 プレゼンテーション能力」など他大学に比べて評価がかなり高い能力については、文系中心に採用している企業の方がより高く評価している（図表3-12）。

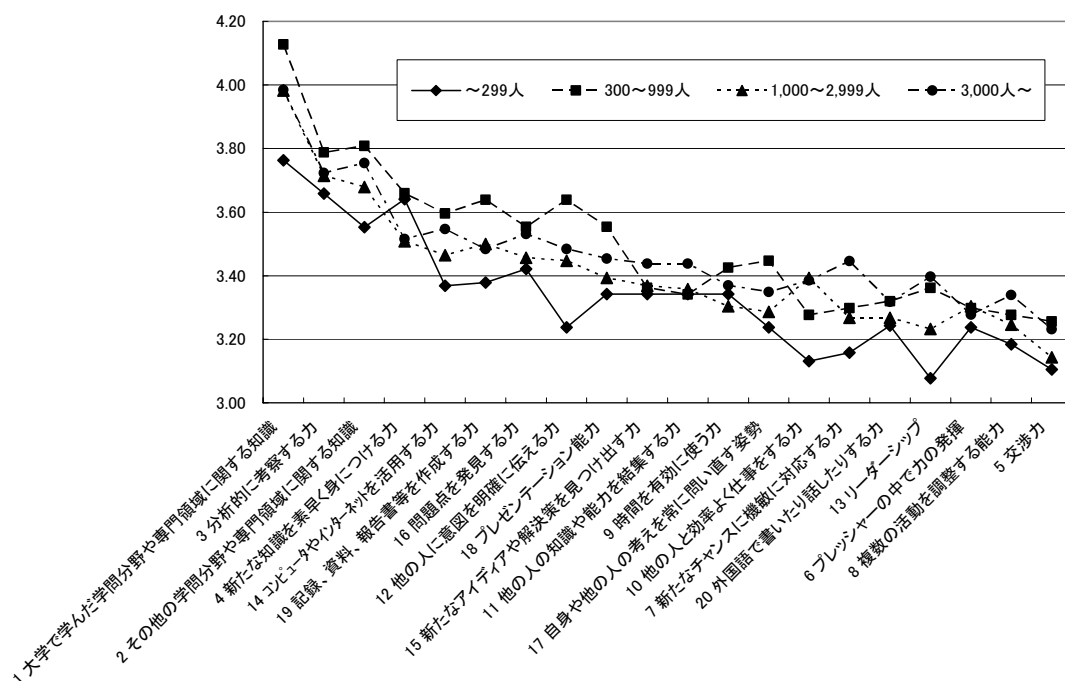
北大の位置別にみると、ほとんどの能力で北大が上位である企業の方が北大と同等である企業に比べると高く評価している（図表3-13）。

文系・理系中心&北大の位置別にみると、図表3-14のようになっている。

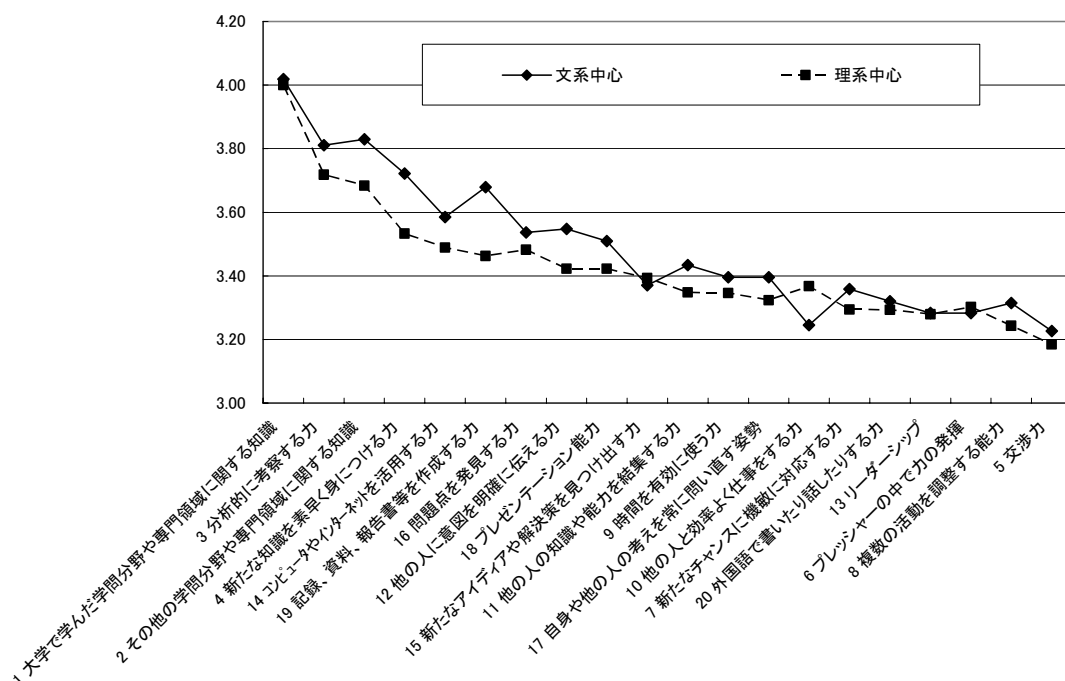
図表3-10 他大学と比較した北大生の能力（平均値）（本社所在地別）



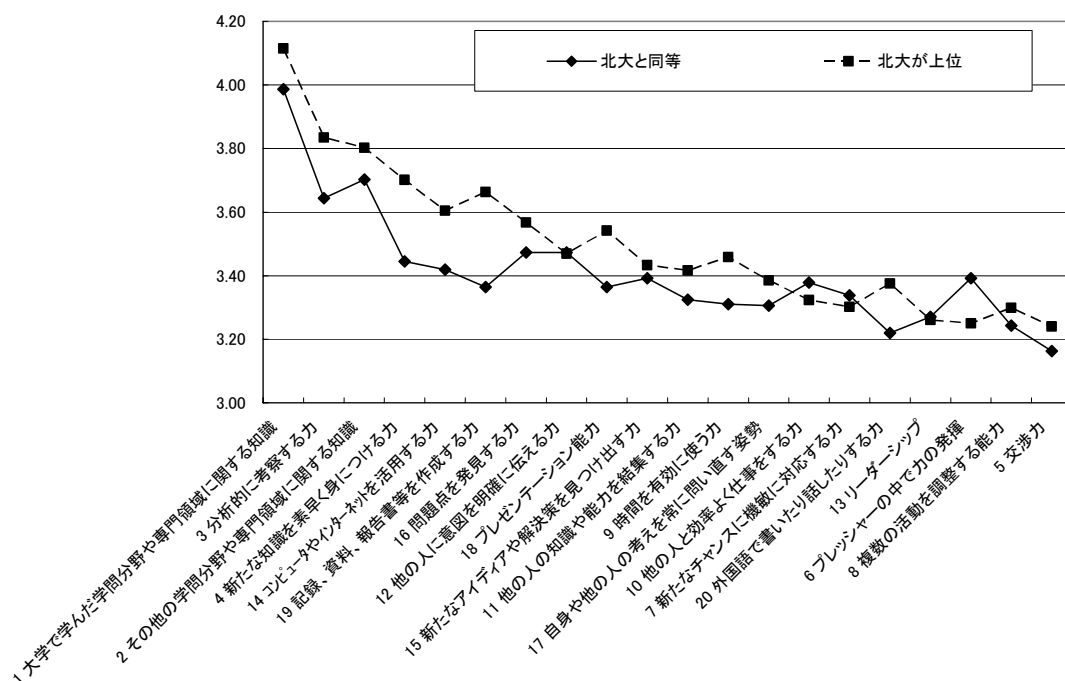
図表3-11 他大学と比較した北大生の能力（平均値）（従業員規模別）



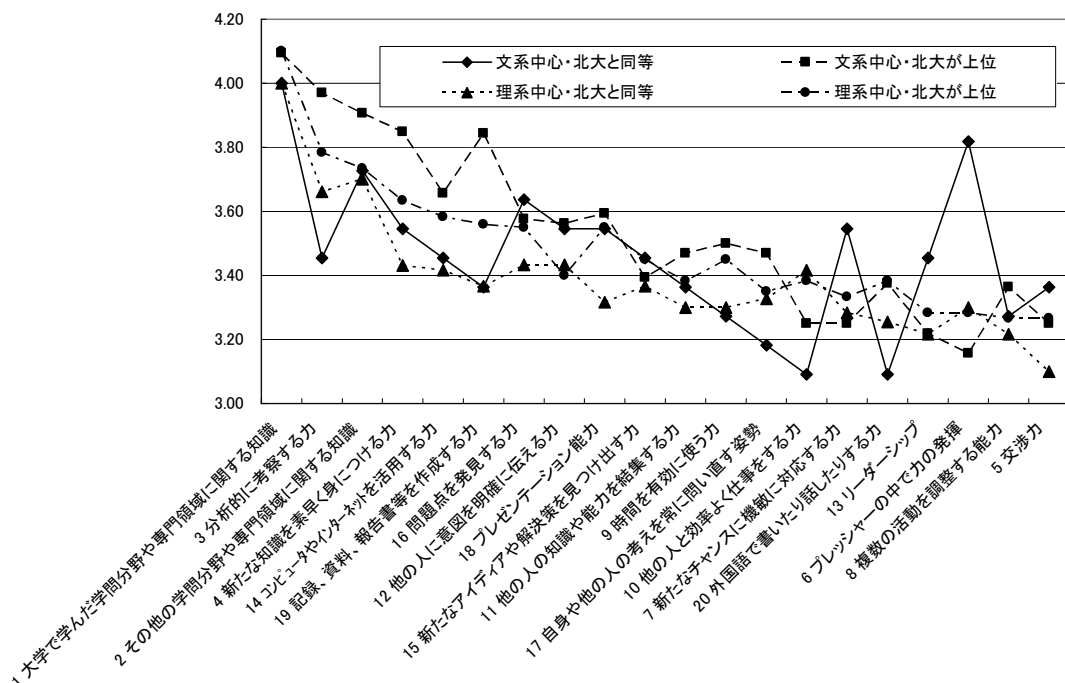
図表3-12 他大学と比較した北大生の能力（平均値）（文系・理系中心別）



図表3-13 他大学と比較した北大生の能力（平均値）（北大の位置別）



図表3-14 他大学と比較した北大生の能力（平均値）（文系・理系中心&北大の位置別）



3.3 大学在学中に身につけてほしい能力（問10）

大学院時代に身につけてほしい能力について、学部・大学院，文系・理系別にそれぞれ 3.1 及び 3.2 でみた 21 の能力（その他を含む）の中から上位 2 つを順位をつけて回答を得た。

学部・文系では，回答がかなり分散しているが，「10 他の人と効率よく仕事をする力」「12 他の人に意図を明確に伝える力」などグループで仕事をする上での能力が上位 2 位にあがっているのが特徴である。

大学院・文系では，学部・文系同様，「12 他の人に意図を明確に伝える力」（第 1 位）「10 他の人と効率よく仕事をする力」（第 5 位）などグループで仕事をする上での能力があがっているが，「1 大学で学んだ学問分野や専門領域に関する知識」も第 3 位にあがっている。

学部・理系，大学院・理系とも「1 大学で学んだ学問分野や専門領域に関する知識」が第 1 位であがっているのが特徴である。次いで，「3 分析的に考察する力」「15 新たなアイデアや解決策を見つけ出す力」がともに上位にあがっている（図表 3-15）。

図表3-15 大学在学中に身につけてほしい能力（得点）

	学部・文系	学部・理系	大学院・文系	大学院・理系
1 大学で学んだ学問分野や専門領域に関する知識	0.29 ⁵	0.74 ¹	0.42 ³	1.08 ¹
2 その他の学問分野や専門領域に関する知識	0.08	0.06	0.11	0.11
3 分析的に考察する力	0.25	0.45 ²	0.29	0.43 ³
4 新たな知識を素早く身につける力	0.12	0.26	0.07	0.08
5 交渉力	0.28	0.12	0.23	0.14
6 プレッシャーの中で力の発揮	0.24	0.14	0.22	0.15
7 新たなチャンスに機敏に対応する力	0.20	0.20	0.20	0.12
8 複数の活動を調整する能力	0.15	0.02	0.15	0.03
9 時間を有効に使う力	0.03	0.02	0.01	0.01
10 他の人と効率よく仕事をする力	0.52 ¹	0.33 ⁵	0.39 ⁵	0.26
11 他の人の知識や能力を結集する力	0.08	0.10	0.08	0.12
12 他の人に意図を明確に伝える力	0.48 ²	0.37 ⁴	0.46 ¹	0.29 ⁴
13 リーダーシップ	0.34 ⁴	0.23	0.44 ²	0.27 ⁵
14 コンピュータやインターネットを活用する力	0.05	0.01	0.05	0.00
15 新たなアイデアや解決策を見つけ出す力	0.37 ³	0.40 ³	0.41 ⁴	0.48 ²
16 問題点を発見する力	0.21	0.21	0.15	0.15
17 自身や他の人の考えを常に問い直す姿勢	0.11	0.11	0.11	0.09
18 プレゼンテーション能力	0.04	0.08	0.06	0.07
19 記録, 資料, 報告書等を作成する力	0.03	0.07	0.02	0.04
20 外国語で書いたり話したりする力	0.07	0.01	0.04	0.03
21 その他	0.06	0.06	0.07	0.05

(注) 1. 得点は、(第1位) = 3点, (第2位) = 1点として計算し, 回答者数で除している。つまり, 全ての回答者がある項目を第1位にあげた場合はその項目の得点は3.00となる。

2. 得点の右の数字は得点の多い5位までの順位

資料

自由回答(問 11)

- ・北海道の地勢上や経済事情等特有の事柄に関するテーマについて関心を持つような教育
- ・学生個々人の良い面を伸ばす教育をお願いします。
- ・今後もさらに優秀な人材を輩出して頂けるように実践的なカリキュラムを取り入れて頂きたいと思います。
- ・御校の基本理念にある「全人教育」に強く期待しております。
- ・専門領域以外の分野にも興味を持つような教育をお願いしたいです（世の中には様々な分野があり、学生時代に可能性の領域を限定せずに幅広い興味を持ってもらいたい。）。
- ・企業にとって即戦力となるような教育よりも、貴学のような優れた特色のある教育環境のもと、物事の本質を追求する教育を引き続きお願いします。
- ・今後とも優秀で人間的にも魅力のある人物を社会に送り出して頂きたいと思います。
- ・問10で1位に書きましたが、一般的にコミュニケーション能力が不足しているように思われます。各人の素養によるところが、大だと思いますが、学業を通してこの辺の力が身に付いてくれればと思います。貴校卒の学生数名が当社に在籍しておりますが、皆活躍いただいております。
- ・個性は組織や集団の構成員に認められることによって成立するものと考えているが、「自分本位＝個性」であるとする若者が多くおり、新入社員研修等で指摘することが多い。また最近では部活やサークルに所属しない学生も多いと聞いている。そのため、会社の中で組織の一員として機能できるかが今後の不安としてある。専門知識の習得や情報とのつきあい方については上手であるが、人と人、人と集団とのつきあい方は不得手であることが多いので、何とかしたいと考えている。また、今後は教育現場においてもコミュニケーション能力（あたり前のこと）の習得は欠かせなくなるのではと考えており、そこをお願いしたい。蛇足ではあるが、最近の新入社員（貴校に限らず）、誤字・脱字を含めた文書作成能力が低い。
- ・北海道だけでなく他地域にも目を向けるような教育
- ・水産分野に強みを持つ大学だというイメージを持っているが、他の大学（水産学部）との違い、この領域が強いというアピールポイントがよくわからないように感じます（こちらの勉強不足かもしれませんが）。逆に（国立）他大学と比較して劣っていると思うところもないのですが「こういう行動特性の人材、専門性を持った人材に出会えるのは北大である」と言えるような特長のある教育を期待します。
- ・自分がどうしたいのか（どうありたいのか）、仕事をする上で明快に意思表示が出きる人材育成（＝キャリア教育）を宜しくをお願いします。
- ・広い視野や考え方をを持った学生さん、行動力のある学生さんが多く見られます。今後グローバル社会の中で幅広い柔軟な思考を持っていただける教育をお願い致します。
- ・年上に対するコミュニケーション能力の向上
- ・協調性と自由な発想の融合
- ・広大な大地の中で生活された方なのでおおらかな性格の方が多いと思います。逆に言えることはもっと前に出る姿勢、意欲的に発言・行動することを身に付けていただければと思います。
- ・貴校にかぎらず、大学全体に対し、・个性的な人物　・主体性のある人物を育成していただければ幸いです。
- ・「フィールドワークの北大」の特長を欠くことなく継続して下さい。
- ・専門領域の深耕とその他の分野への広い視野を持つことの両立・コミュニケーション能力の向上

- ・知識はありますが、積極性が欠ける。
- ・今回の調査項目では個人の資質に因る部分が多く、学校の違いによる明確な差を感じないため殆どを中間の回答としました。北大卒の方には、高度な専門知識と、学内外での活動（研究活動、学外交流等）による幅広い人的交流などをベースに、将来的には幹部クラスの会社を背負って立つ人材になってほしいと道内企業として期待しています。
- ・日本トップクラスの大学としての活躍を期待しております。
- ・北海道大学出身者は人数が少ないものの、弊社の重要な部門で中心となって働いてもらっています。今後も貴重な要員として期待しております。
- ・従来、弊社に御入社いただいている学生様には、期待通りのご活躍をいただいております。今後とも従来同様に優秀な方々をご輩出いただければ幸甚です。
- ・2004年に会社を設立したばかりの弊社ですが、この4年間で2名の貴学出身者をお迎えすることができました。2名とも非常に活躍しており、中でも知識の吸収力は目ざましいものがあります。これからも貴学出身者を是非お迎えしたいと思います。よろしくお願いします。
- ・最近の学生は優秀なので北海道外の企業でも活躍していただきたいです。
- ・北海道から出て、東京・大阪・海外で「働く」ことの魅力。地元志向が強い学生が多いように感じられますので、広い世界で働くことの楽しさを伝えていただければ幸甚です。
- ・内定を出しても辞退者が多く、地元指向が強いように思われる。
- ・特にありませんが、遠方のためなかなか弊社を受験して入社していただくことも難しい現状ですので、さまざまな形で情報提供にはご協力していきたいと思います。
- ・大学2年生の学生等、就職活動を本格的に始める前の学生と企業で働く社員との座談会等を企画してほしい(就職活動を始める前に、企業に求められる資質を意識し、無駄な学生生活を送って欲しくないから)。
- ・北海道大学生を積極的に採用したいと考えております。予定されている就職支援イベントがございましたら是非共ご案内くださいますようお願い申し上げます。
- ・キャリアセンターは開放感がありますが、学部施設環境へは外部者からの訪問やコミュニケーションにプレッシャーを感じます。フランクな雰囲気を将来に望みます。

就職先企業に対する大学教育の成果に関するアンケート調査票

- いただいた回答は、統計的に処理しますので、個別の回答結果を外部に公開することはありません。
- 回答に迷う場合には、最も近いものを選んで回答して下さい。ただし、回答しづらいあるいは回答したくない設問については、空欄でも結構です。
- 設問によっては、「一つだけ○」「番号を記入」などと明記されていますので、指示にしたがって回答して下さい。
- 本アンケートは、平成19年8月31日（金）までに同封の返信用封筒でお送り願います。

〒060-0808 札幌市北区北8条西8丁目 クラーク会館

北海道大学 キャリアセンター 電話 011-706-2987

メールアドレス : ccsup1@academic.hokudai.ac.jp

I. 貴社の概要について伺います。

問1 本社の所在地について、都道府県名を記入して下さい。

（都・道・府・県）

問2 貴社の従業員数（正社員のみ）について、該当する番号に一つだけ○をつけて下さい。

1	～29 人	2	30～99 人
3	100～299 人	4	300～499 人
5	500～999 人	6	1, 000～2, 999 人
7	3, 000 人～		

問3 貴社の業種について、該当する番号に一つだけ○をつけて下さい。

1 農林水産業 2 鉱業 3 建設業 4 製造業

5 電気・ガス・熱供給・水道業 6 情報通信業 7 運輸業

8 卸売・小売業 9 金融・保険業 10 不動産業 11 飲食店、宿泊業

12 医療、福祉〔病院、保健所、福祉事務所、老人福祉・介護事業など〕

13 教育、学習支援業〔小・中・高等学校、大学、図書館、学習塾、英会話など〕

14 複合サービス事業〔郵便局、協同組合など〕

15 サービス業（他に分類されないもの）〔法律事務所、経営コンサルタント業、旅行業、広告業など〕

16 公務（他に分類されないもの）〔国の行政機関・司法機関、地方公共団体の行政機関など〕

17 その他（ ）

Ⅱ. 貴社の大卒者の採用状況についてお伺いいたします。

問4 過去5年間の貴社の大卒新卒者の採用者数を、学部・大学院及び文系・理系別にその人数を以下の表にそれぞれご記入下さい。なお、該当者がいない場合は0と記入して下さい。

		過去5年間（2003～2007年計）		うち、2007年4月入社	
		大卒全体の採用数	うち、北海道大学からの採用者数	大卒全体の採用数	うち、北海道大学からの採用者数
学部	文系	人	人	人	人
	理系	人	人	人	人
大学院	文系	人	人	人	人
	理系	人	人	人	人

問5 貴社において、過去約5年間で採用者数の多い上位3校の大学名を文系、理系別に記入下さい。

文系	大学	大学	大学
理系	大学	大学	大学

問6 本学学生の採用方法について、学部・大学院及び文系・理系別に該当する番号にそれぞれ一つずつ○をつけて下さい（複数の採用方法をとっている場合は最も一般的な方法に○をつけて下さい）。

		自由応募	推薦	その他	採用無し
学部	文系	1	2	3	4
	理系	1	2	3	4
大学院	文系	1	2	3	4
	理系	1	2	3	4

問7 現在の景気状態と仮定して、将来にわたっての北海道大学からの採用者数について学部・大学院及び文系・理系別に該当する番号にそれぞれ一つずつ○をつけて下さい。

		北大生の割合を増やしたい	現在と同じ程度の割合	北大生の割合を減らしたい	今後の採用の予定はない
学部	文系	1	2	3	4
	理系	1	2	3	4
大学院	文系	1	2	3	4
	理系	1	2	3	4

Ⅲ 貴社で採用した大卒者の働く上での能力についてお伺いいたします。

問8 約10年前と比較して最近の大卒者の働く上での能力について感じていることを、それぞれの項目の該当する欄の番号に一つずつ○をつけて下さい。

	10年前の大卒者と比較して、				
	大変優れている	やや優れている	同じ程度	やや劣っている	大変劣っている
1 大学で学んだ学問分野や専門領域に関する知識	5	4	3	2	1
2 その他の学問分野や専門領域に関する知識	5	4	3	2	1
3 分析的に考察する力	5	4	3	2	1
4 新たな知識を素早く身につける力	5	4	3	2	1
5 交渉力	5	4	3	2	1
6 プレッシャーの中で力の発揮	5	4	3	2	1
7 新たなチャンスに機敏に対応する力	5	4	3	2	1
8 複数の活動を調整する能力	5	4	3	2	1
9 時間を有効に使う力	5	4	3	2	1
10 他の人と効率よく仕事をする力	5	4	3	2	1
11 他の人の知識や能力を結集する力	5	4	3	2	1
12 他の人に意図を明確に伝える力	5	4	3	2	1
13 リーダーシップ	5	4	3	2	1
14 コンピュータやインターネットを活用する力	5	4	3	2	1
15 新たなアイデアや解決策を見つけ出す力	5	4	3	2	1
16 問題点を発見する力	5	4	3	2	1
17 自身や他の人の考えを常に問い直す姿勢	5	4	3	2	1
18 プレゼンテーション能力	5	4	3	2	1
19 記録、資料、報告書等を作成する力	5	4	3	2	1
20 外国語で書いたり話したりする力	5	4	3	2	1

問9 貴社が採用した大卒者の働く上での能力について、北海道大学と他大学を比較して感じていることを、それぞれの項目の該当する欄の番号に一つずつ○をつけて下さい(次頁にも続きます)。

	北海道大学出身の社員は他大学出身者と比較して、				
	大変優れている	やや優れている	同じ程度	やや劣っている	大変劣っている
1 大学で学んだ学問分野や専門領域に関する知識	5	4	3	2	1
2 その他の学問分野や専門領域に関する知識	5	4	3	2	1
3 分析的に考察する力	5	4	3	2	1
4 新たな知識を素早く身につける力	5	4	3	2	1
5 交渉力	5	4	3	2	1
6 プレッシャーの中で力の発揮	5	4	3	2	1
7 新たなチャンスに機敏に対応する力	5	4	3	2	1
8 複数の活動を調整する能力	5	4	3	2	1
9 時間を有効に使う力	5	4	3	2	1
10 他の人と効率よく仕事をする力	5	4	3	2	1

	北海道大学出身の社員は他大学出身者と比較して				
	大変優れている	やや優れている	同じ程度	やや劣っている	大変劣っている
11 他の人の知識や能力を結集する力	5	4	3	2	1
12 他の人に意図を明確に伝える力	5	4	3	2	1
13 リーダーシップ	5	4	3	2	1
14 コンピュータやインターネットを活用する力	5	4	3	2	1
15 新たなアイデアや解決策を見つけ出す力	5	4	3	2	1
16 問題点を発見する力	5	4	3	2	1
17 自身や他の人の考えを常に問い直す姿勢	5	4	3	2	1
18 プレゼンテーション能力	5	4	3	2	1
19 記録、資料、報告書等を作成する力	5	4	3	2	1
20 外国語で書いたり話したりする力	5	4	3	2	1

問10 大学在学中に身につけて欲しいことを、学部・大学院及び文系・理系別に下記項目から上位二つを選んでその番号を下欄にお答え下さい

1 大学で学んだ学問分野や専門領域に関する知識	2 その他の学問分野や専門領域に関する知識
3 分析的に考察する力	4 新たな知識を素早く身につける力
5 交渉力	6 プレッシャーの中で力の発揮
7 新たなチャンスに機敏に対応する力	8 複数の活動を調整する能力
9 時間を有効に使う力	10 他の人と効率よく仕事をする力
11 他の人の知識や能力を結集する力	12 他の人に意図を明確に伝える力
13 リーダーシップ	14 コンピュータやインターネットを活用する力
15 新たなアイデアや解決策を見つけ出す力	16 問題点を発見する力
17 自身や他の人の考えを常に問い直す姿勢	18 プレゼンテーション能力
19 記録、資料、報告書等を作成する力	20 外国語で書いたり話したりする力
21 その他 ()	

学部	文系： 第1位 _____	第2位 _____
	理系： 第1位 _____	第2位 _____
大学院	文系： 第1位 _____	第2位 _____
	理系： 第1位 _____	第2位 _____

問11 北海道大学の教育に望むことがありましたらお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

平成19年7月30日

〇〇株式会社
総務・人事担当部長 様

北海道大学
理事・副学長 脇 田 稔

「就職先企業に対する大学教育の成果に関するアンケート調査」について(依頼)

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は北海道大学の学生の採用に関しましてご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

国立大学は、法人化を迎えて4年目となりますが、ご承知のように各大学法人は、大学独自の中期目標・中期計画を設定し、その達成度を問われることになっております。

本学は、世界最高の研究・教育水準の設定目標に向って、日々努力をしているところでありますが、この達成度についての定量的評価である外部評価が重要な調査項目になっております。

昨年度は、本学卒業生を対象に「大学教育の成果」につきましてアンケート調査を行い、現在その結果を取り纏めておりますが、今年度は本学卒業生が在職しております企業を対象に「本学卒業生に対する大学教育の成果」につきましての調査研究を実施することにいたしました。

つきましては、ご多忙の折、突然のお願いで至極恐縮に存じますが、同封のアンケートに回答いただき、平成19年8月31日(金)までにご返送いただければ幸いです。

なお、本件アンケート調査につきましては、総務・人事担当部署の責任者様宛に郵送しておりますが、もし、ご担当が異なる場合には、適切な担当部署へご回付いただきますようお願い申し上げます。

本アンケートは、北海道大学高等教育機能開発総合センター及びキャリアセンターの協力を得て実施しますが、北海道大学の今後の教育改善への参考に資するために、何卒ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

敬 具

※ 高等教育機能開発総合センターは、教養部が廃止された平成7年に設立され、全学高等教育のあり方に関して研究を行っているセンターで、また、キャリアセンターは、在校生・卒業生に対する就職支援及び在校生へのインターンシップなどのキャリア教育支援を行うために法人化とともに発足した組織であります。

「就職先企業に対する大学教育の成果に関するアンケート調査」についての実施要領

1. 調査目的 本学の卒業生が就職している企業に対してアンケート調査を実施し、企業における卒業生の評価に及ぼす大学教育の効果などを明らかにすることを目的とする。
2. 実施時期 平成19年8月1日～平成19年8月31日
3. 対象企業 過去3年間で本学学生を2名以上採用している企業
4. 調査項目
 - ・ 卒業生の採用状況
 - ・ 大学教育と仕事との関係（専攻分野と仕事との関係など）
 - ・ 大学教育に対する要望など
5. 実施母体 高等教育機能開発総合センター，キャリアセンター
6. アンケート
 締 切 り 平成19年8月31日（金）
7. 送 り 先 〒060-0808 札幌市北区北8条西8丁目 クラーク会館
 北海道大学 キャリアセンター 宛
8. 問い合わせ先
 高等教育機能開発総合センター 生涯学習計画研究部
 准教授 亀野 淳
 TEL：011-706-6928, E-mail：jkameno@high.hokudai.ac.jp

 キャリアセンター センター長 工藤 昌行
 TEL：011-706-2987, E-mail：ccsup1@academic.hokudai.ac.jp

就職先企業に対する大学教育の成果に関する調査研究
－就職先企業に対するアンケート調査結果－
報 告 書

発行機関	北海道大学高等教育機能開発総合センター 〒060-0817 札幌市北区北 18 条西 8 丁目		
発行責任者	センター長	脇田	稔
担 当	准教授	亀野	淳 (TEL : 011-706-6928)
	キャリアセンター長	工藤	昌行 (TEL : 011-706-3270)
発 行	平成 2 0 年 1 月		
